

カキ生産グループ

【グループの目的】

本研究会は、カキ生産・養殖業の振興を目的に同業者及び異業種間の技術交流を行い、新規開発課題テーマの抽出と生産性向上関連製品の開発・商品化を図る。また、広島県産カキのブランド化の向上を目的に、安心・安全で環境に優しいカキ生産・販売を推進すると共に、味の定量化を検討する。

【平成 26 年度グループ参加者】

グループリーダー： 中野 良広 ((有)中野水産 社長)
サブリーダー： 富永 克徳 ((有)エヌ・ケイクラフト)

No.	企業名等	役職	氏名	得意技や主力製品
1	(有)中野水産	社長	中野 良広	牡蠣生産・販売
2	中島水産(株)	社長	中島 健一郎	牡蠣生産・販売
3	ナバラ水産	専務	名原 大輔	牡蠣生産・販売
4	高田水産	総合責任者	高田 浩明	牡蠣生産・販売
5	マルキン水産	専務	伊豫谷 伸一	牡蠣生産・販売
6	呉製網(株)	常務取締役	広屋 隆博	漁網製造販売
7	(株)REC	社長	阿部 亨	段ボール容器製造
8	(有)中野水産	担当部長	森松 直文	牡蠣生産・販売
9	(有)大賀技研工業	代表取締役	大賀 敏昭	各種設計・製造
10	中川水産	専務	中川 基輝	牡蠣生産・販売
11	クニヒロ(株)	OCW 推進室長	川崎 耕平	牡蠣卸・加工販売
12	(有)エヌ・ケイクラフト	代表取締役	富永 克徳	FRP 造船業
13	ヒロモトデザイン	代表	広本 理絵	デザイナー
14	沖友水産	代表	沖友 健二	牡蠣生産・販売
15	(有)北吉水産	品質管理課長	北吉 照行	牡蠣生産・冷凍・販売
16	ト部産業(株)	営業部	大形 修司	牡蠣販売
17	マルサ・やながわ水産(有)	代表取締役	柳川 政憲	牡蠣生産・販売
18	(株)潮家	代表取締役	池田 佳幸	海鮮料理店
19	(株)林水産	代表取締役	林 建志	牡蠣生産・販売
20	(株)ケミカル山本	社長付	濱田 高義	ステンの焼け取・サビ取

オブザーバー 広島大学 生物圏科学研究科 羽倉 教授
 広島県立総合技術研究所 水産海洋技術センター 赤繁 所長
 (公財)くれ産業振興センター 濱田(→山岡)コーディネーター

【平成 26 年度グループ活動報告】

1 活動目的

牡蠣の高付加価値化・生産性向上・販路拡大等を目的に、研究・開発・勉強会等を実施。

【計 画】

- (1) ノロウイルス対策研究
- (2) 早期身入りカキ生産検討
- (3) 生産現場視察
- (4) シェフ(料理人)からの要望検討
- (5) KIT21 会員向け お歳暮用等カキ直販
- (6) 閉鎖海域での浄化法の検討

2 活動実績

(1) ノロウイルス対策研究

KSSC 産学連携スタート補助金にて広島大学/島本整教授に依頼

課題名 「柿渋を利用した殻付き牡蠣のノロウイルス対策に関する初動調査研究」

研究者 : 広島大学大学院生物圏科学研究科 島本 整 教授

結 果 : 今回試みた条件では、カキに取り込まれたウイルスの除去は確認できなかった。今後、新たな条件でウイルス除去を試みる必要がある。

今 後 : 平成 27 年度も継続して島本先生に研究委託検討中。

(2) 早期身入りカキ生産検討

6/24 県立水産海洋技術センターで勉強会開催

- 1) 水産海洋技術センター紹介 (岡崎 尚 技術支援部長)
- 2) 「広島カキ」のシーズン当初の身入りを早める技術説明(平田靖 水産研究部副部長)
- 3) 質疑応答
- 4) 施設見学



(3) 生産現場視察

11/6 広大/羽倉教授他 8 名が(有)中野水産のカキ養殖イカダ学術視察

参加者 : 広島大学/生物圏科学研究科
羽倉 義雄 先生 + 学生 7 名
東京海洋大学/海洋生物資源学科
遠藤 雅人 先生

場 所 : 呉市音戸町波多見沖 (広湾海域)
右図赤丸参照



(4) シェフ（料理人）からの要望検討

11/14 海鮮料理店「潮家」にてグループ会議開催

料理人からのカキに関する意見

- ・ オイスターバーでも生ガキは出されているが、保健所は食中毒を恐れて注意喚起をしている。
- ・ 県外のお客様はシーズンオフでもカキ料理を所望。
- ・ 夏場は山口の天然岩ガキや山陰の養殖岩ガキしかなく、広島は県条例にて夏の岩ガキ出荷を認めていないが、水産課では3倍体カキを夏ガキと認める方向で動きあり。
- ・ 現状では夏場の「酢ガキ」の要望に対処できていない。

★ 県が積極的に「カキ」を推しているという戦略が欲しい！

(5) KIT21 会員向け お歳暮用等カキ直販

極端な稚貝の減少のため、中止

(6) 閉鎖海域での浄化法の検討

マルサ・やながわ水産(有) + (有)大賀技研

テーマ：エアリフターの開発

参加：

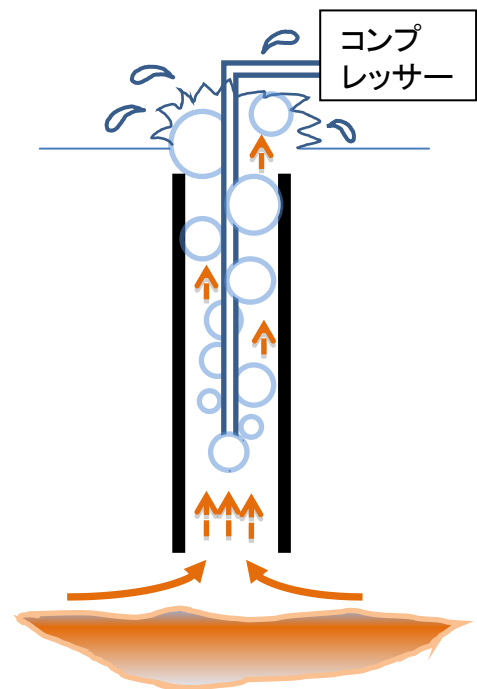
マルサ・やながわ水産(有)

(有)大賀技研

くれ産業振興センター/ 好満常務

状況：

継続検討中。



【平成 27 年度グループ活動計画】

1 活動目的

牡蠣の安心・安全及び高付加価値化・生産性向上・販路拡大等を目的に、研究・開発・勉強会等を実施し、新規事業に貢献する。

2 活動計画

(1) グループ会議

- 1) 原則として奇数月の第一金曜日 18時～19時
- 2) 会員の相互理解と連携強化及びグループ事業の円滑な推進を図る。
- 3) 話題提供、各社情報交換、技術課題抽出とその解決検討。

(2) 具体的検討予定項目

- 1) 講演会「牡蠣ノロウイルス対策」 (広島大学/島本 整 先生)
- 2) 牡蠣ノロウイルス対策研究継続 (広島大学・中野水産)
- 3) 牡蠣打ち教材ビデオ DVD 作製
- 4) 生産現場視察 ((株)日本かきセンター)
- 5) その他：生産性、安全性、衛生、品質管理等の向上検討

以 上